

## ●西宮浜 まとめ(作成中)

西宮浜は、元々は、バブル崩壊以前に、シティリゾートとレクリエーションコンプレックスの形成を目指す「マリナシティ計画」が進められていた。

居住地域として開発されてこなかったため、交通の便が悪く、産業団地と並んで立地しているために夜間の治安が悪いなど、さまざまな問題が、居住地域としてのハード面でも存在している。

南芦屋浜と西宮浜は、いずれも震災後に利用計画を変更。阪神間の震災復興シンボルと位置づけ、復興住宅の供給を中心に整備が進められた。

1998年。西宮浜は「西宮マリナパークシティ」として、来年までに約三千五百戸、約一万人が暮らすまちになる。春には四割が完成し、3月10日から入居が始まっている。

2015年時点で、船が滅多に通らない跳ね橋の開閉操作に年間約250万円支出している。(朝日新聞より)

	年度	殺処分数 H26年以降	助成 金無	助成金有			不妊 合計	里親		合計	
				避妊	去勢	小計		個人	動管		
	1991年度	H3									
西宮浜の埋め立て工事が終了	1992年度	H4									
	1993年度	H5									
1994年1月、震災→西宮大橋が壊れて通行止。今の御前浜橋がある場所が埋め立てられ、仮設の連絡道路ができた。 1月23日西宮市で仮設入居申し込み開始。	1994年度	H6									
西宮浜地区には被災者の仮設住宅や復興住宅が建ち、住民が増加。西宮大橋は復旧したものの、生活利便性の高い歩行者専用の橋の建設計画が浮上。	1995年度	H7									
	1996年度	H8									
8月19日西宮市が撤去作業を始める。											
3月28日東部新都心、西宮浜、南芦屋浜で街開きの式典。	1997年度	H9									
4月からは復興住宅への入居が始まる。											
1999年3月3日西宮市、仮設解消が10月末になる見通し明かす。	1998年度	H10									
1999年6月、跳ね橋になり、御前浜橋が開通。(近年、市は開閉操作に年間約250万円支出。)	1999年度	H11									
	2000年度	H12									
	2001年度	H13									
	2002年度	H14									
	2003年度	H15									
	2004年度	H16									
	2005年度	H17									
	2006年度	H18									
動物管理センター新規職員着任。跳ね橋の猫問題は既に以前からあったとのこと。	2007年度	H19									
助成金スタート	2008年度	H20				30	30				
	2009年度	H21				18	18				
	2010年度	H22				38	38				
	2011年度	H23				14	14				
	2012年度	H24		23	9	9	32				
	2013年度	H25		13		0	13	2		2	
2014年6月、猫小屋の設置許可。公園開発の計画。(9月パブリックコメント募集)	2014年度	H26	13	13		0	13	3		3	
	2015年度	H27	6	10	15	18	33	43	3	3	
	2016年度	H28	1	5	22	22	44	49	0	1	
2018年3月末までに猫小屋を撤去	2017年度	H29		5	5	6	11	16	5	1	
	年度不明						0	41		41	
	今後の予定						0	3		3	
			20	69	151	46	197	266	57	2	59